

平成 15 年度経済産業省委託事業

コーディネータネットワーク推進つくば会議

『産学官連携とコーディネータ』

～コーディネータの目から見た産学官連携と大学発ベンチャー～

報 告 書

(2004 年 1 月)

開催日：2003 年 10 月 14 日

会 場： つくば研究支援センター研修室 A

主 催： 独立行政法人経済産業研究所
(有)つくばインキュベーションラボ

共 催： 茨城県

財団法人 茨城県科学技術振興財団

筑波大学産学リエゾン共同研究センター

(株)つくば研究支援センター（都市エリア産学官連携促進事業）

後 援： つくば市

朝日新聞水戸支局

日刊工業新聞社

はじめに【開催の趣旨】

産学官連携や、大学発ベンチャー創出を円滑に推進するために『コーディネータ』が重要であると叫ばれて久しい。このような仲介役や調整役の存在なしには、文化風土や目的意識、価値観の異なる3つのセクター（産・学・官）が最適な連携活動を展開できず、また大学発ベンチャー等の創出が円滑に進まないことは、今までに多くの識者の提言や調査報告で取り上げられてきた。

ところで、最近の産学官連携プロジェクトでは、必ず『コーディネータ』のような機能をもつポジションが用意されている。呼称は『コーディネータ』のほかエージェント、アドバイザー、ビジネスインキュベーションマネジャーなどとも称され、各プロジェクトの必須の機能として位置づけられている。

また、国立大学や独立行政法人等研究機関側においても『産学連携コーディネータ』などの設置が進められ、他のセクターとの連携を加速・展開し、ゴールへと最短で到達するための切り札的な役割を期待されている。

しかし、産学官連携のためのコーディネータが位置付けられ、期待され、実行が始まっているにも関わらず、実際には組織間の壁を取り払うのは難しいという現実がある。特に、様々な研究関連機関が集積している筑波研究学園都市では、それぞれの組織にコーディネータがおかれていることから、地方都市としては特異的にコーディネート業務に就いている人材が多い。とりもなおさず、これらの組織間の連携をスムーズにし、シナジー効果によって新たな研究成果と新産業が創出されることが、地域の悲願である。

本シンポジウムでは、類似の悩みと希望を共有するコーディネータが集い、われわれは何をすべき存在であるのか、何を道具として業務を行い、何に悩むのか、そして、どう解決していけばよいのか、など会場を交えて活発に議論したい。そして、これを機会に、産学官連携の動きを加速し、蓄積された知的資源により、大学や研究所発のベンチャーをはじめ新産業を創出し、地域活性化に寄与することを目指す。

発起人

都市エリア産学官連携促進事業 筑波研究学園都市エリア 科学技術コーディネータ 江原 秀敏
上原 健一

目 次

第1章 コーディネータネットワーク推進つくば会議の概要	1
(1) 目的	3
(2) 進め方	6
(3) シンポジウムプログラム	7
(4) 講師・パネラー等のプロフィール	8
第2章 講演と事例紹介	11
(1) 基調講演「電通大TLO社長のコーディネータ・ライフとは？」	13
(2) 事例紹介1 「茨城県の産業振興と産学官連携コーディネータ・ネットワーク」	24
(3) 事例紹介2「デジタルニューディールの目指すもの」	28
第3章 『コーディネータの声アンケート』集計報告	33
(1) アンケート配布先について	35
(2) アンケート結果	36
第4章 パネルディスカッション	45
(1) 会議の趣旨説明	47
(2) コーディネータの役割	49
(3) コーディネータ活動と求められる資質・能力	54
(4) コーディネート成功のために	59
(5) コーディネータ・ネットワークに向けて	64
(6) 会場の参加者からの意見	69
(7) コーディネータからのメッセージ	70
第5章 『参加者の声アンケート』とりまとめ	73
(1) 参加者の声アンケートについて	75
(2) アンケート回答状況	75
(3) アンケート結果	75
第6章 つくば会議から全国会議へ	83
資料編	89